

実践報告4

# Discussionのパフォーマンステスト

## —英語が苦手でもできる「やり取り」への挑戦—

愛知県立岩津高等学校 教諭 荻窪 雄太

### 1 はじめに

本校生徒は英語が極めて苦手である生徒が多い。スピーチなどの「話すこと [発表]」に対しては意欲的に取り組む姿が見られるものの、即興性を求められるような活動に対する自信をもっている生徒はいない。そこで、英語が苦手であってもある程度即興性のある「話すこと [やり取り]」の活動に挑戦し、成功体験を得ることで「英語でやり取りをすること」への自信をつけさせたいと考えた。

### 2 単元の目標と言語活動

#### (1) 教材

ア 教科書：NEW FLAG English Communication III（増進堂）

イ 単元：Chapter 2 Uluru, Not Ayers Rock

#### (2) 単元の目標

ア Uluru が先住民にとってどのようなものなのかについての理解を深め、観光と観光地の保護について多角的な視点で考え、自身の考えを深めることができる。

イ 他者の意見を英語で理解し、内容に合わせて自分自身の考えを英語で述べることができる。

ウ 自分とは異なる考え方を踏まえた上で、自分の考えを英語で書くことができる。

### 3 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

聞くこと	身近な話題や既習の内容であれば、教師や級友が話す英語を理解することができる。
読むこと	教科書の英文を日本語に訳さずに概要をとらえることができる。
話すこと [やり取り]	教科書の内容について自分の意見を述べるができる。
書くこと	教科書の内容などについて、自分の意見や感想を70語以上の英文で書くことができる。

### 4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>&lt;知識&gt; 級友が使用する英語の語彙や表現（観光・環境関連の表現）を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 先住民と観光について書か</p>	先住民と観光について書かれた文章に関する級友の意見を英語で聞き、さまざまな考え方の概要や要点を捉えている。	先住民と観光について書かれた文章に関する級友の意見を英語で聞き、さまざまな考え方の概要や要点を捉えようとしている。

	れた文章に関する級友の意見を英語で聞き取り，相手の主張をおおむね理解している。		
読むこと	<p>&lt;知識&gt; 先住民と観光について書かれた文章に関する語彙や表現を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 先住民と観光について書かれた文章を読んで，日本語に訳さずに概要を理解している。</p>	先住民と観光について書かれた文章を時間軸に沿って理解し，問題点や解決策を整理している。	先住民と観光について書かれた文章を時間軸に沿って理解しようとし，問題点や解決策を整理しようとしている。
話すこと [やり取り]	<p>&lt;知識&gt; 相づちや賛成・反対など会話を円滑にする表現を覚えている。</p> <p>&lt;技能&gt; 相づちや反対など会話を円滑に進める表現を自然に使用している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相づちや反対など会話を円滑に進める表現や本単元で学んだ語彙などを状況に合わせて使っている。</li> <li>他者の発言を理解した上で，自分の意見を話して伝えている。</li> </ul>	自ら積極的に自分の意見を相手に伝わるように英語で述べたり，相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしたりしている。
書くこと	<p>&lt;知識&gt; 自分の考えを理由とともに根拠や具体例を述べる書き方を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 自分の考えを理由とともに根拠や具体例を述べる書き方をしている。</p>	先住民と観光について書かれた文章に関する級友のさまざまな意見を踏まえて，自分の考えを70語以上の英語で書いている。	先住民と観光について書かれた文章に関する級友のさまざまな意見を踏まえて，自分の考えを英語で書こうとしている。

## 5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい，学習活動	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
		知	思	主	
	<p>【ねらい】 英語で読んだ内容に関する級友の意見を聞くという4技能を統合した言語活動を行い，英語の技能を高めるとともに，さまざまな意見に触れることで視野を広げる。</p> <p>【学習活動】 Discussion</p> <p>①『もし自分がオーストラリアの首相だとしたら，Uluruに登ることを禁止するか』について考え，その理由を書く。</p> <p>②肯定側・否定側に分かれてディスカッションを行い，生徒それぞれの考え方を学級内で共有する。</p> <p>③討論を終えて，最終的な自分の考えをまとめ，本時の振り返りを行う。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>級友の発言に対して，賛成なのか反対なのかを示した上で発言するように促す。</li> <li>生徒の発言を教員がパラフレーズしたり，キーワードを板書したりすることで，生徒の発言を理解できるように支援する。</li> </ul> <p>ループリックによる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の生徒の意見を聞き，さまざまな考え方を理解することができる。</li> <li>他者の発言を理解した上</li> </ul>

					で、自分の意見を述べる ことができる。 ・聞き手に分かるように自ら 積極的に自分の意見を英 語で述べようとしている。
	【ねらい】 Discussionで聞いた内容を、板書のメモを基に自 分で書くという4技能を統合した言語活動を行 い、英語の技能を高めるとともに、次回のパフ ォーマンステストへとつなげる。 【学習活動】 Summary Discussionの際にまとめた板書を写真に撮ってお き、板書を見ながらどんな意見が出たかを英語で まとめる。	○			・それぞれのトピックについ て、賛成と反対の立場ごと にまとめさせる。 ・まず生徒各自で行い、様子 を見て級友と相談しなが ら行わせる。
	【ねらい】 語彙や表現、及び級友の発言内容など、本単元を 通して学んできた全ての力を試すパフオーマン ステストを行うことで、本単元での学びの評価及び 振り返りを行う。 【学習活動】 Performance test 詳細は6のパフオーマンステストの項目に記載。	○	○	○	・詳細は6のパフオーマン ステスト、7のルーブリ ックに記載。
	【ねらい】 最後に自分なりの思考を整理することで、学びを 深めるとともに、書く力を高める。 【学習活動】 Essay Writing 言語活動を通してさまざまな考え方に触れた後 で、自分の考えを再構築し、自分とは異なる考え 方を踏まえ、現在の自分の考えを改めて書く。	○	○	○	・自分とは異なる考え方につ いて触れた上で、自分の考 えを書くという書き方につ いて例示する。 ・70語以上書くように促す。 <u>ルーブリックによる評価</u> ・自分とは異なる考えに触れ ているか。 ・最初の自分の考えよりも深 まっている、もしくは変化 しているか。 ・70語以上書くことができ ているか。

## 6 パフォーマンステスト

### (1) 実施方法

本単元の Discussion 活動で扱った「もし自分がオーストラリアの首相だとしたら、Uluruに登ることを禁止するか」という質問について、ペアで話し合うパフォーマンステストを行う。以下の方法で行う。

- ・誰とペアになるかは分からない。
- ・賛成と反対の立場はどちらになるか分からない。
- ・相手の意見に関連する反対意見を述べる。
- ・3分間会話を続けようとする。
- ・別の場所で教員と生徒2名がテストを行い、教室でその他の生徒は自習を行う。

## (2) 指導上の留意点

- ・事前に教員が会話のモデルを示す。
- ・事前に異なるペアで複数回練習させる。
- ・テスト実施前にルーブリックを配布し、目標と評価の観点を共有する。
- ・テスト実施後は教員による評価を記入したルーブリックを生徒に返却し、フィードバックする。

## 7 ルーブリック

### (1) 評価方法

生徒二人による会話を、教員がルーブリックを用いて採点する。

### (2) 評価の領域（内容のまとめ）：「話すこと [やり取り]」

	目標	a	b	c
知識・技能	相づちや反対など会話を円滑に進める表現を自然に使うことができる。	表現集の多様な表現を自然に用いている。	ある程度同じ表現を用いている。	表現を用いていない。
	この単元で学んだ語彙や表現を適切に使うことができる。	多様な語彙や表現を適切に用いている。	ある程度語彙や表現を適切に使っている。	語彙や表現を適切に使っていない。
思考・判断・表現	自分の意見を理由や根拠とともに述べることができる。	自分の意見を理由や根拠とともに述べている。	自分の意見を述べている。	自分の意見を述べていない。
	相手の意見に合わせた反論をすることができる。	相手が述べたことに関連した反論をしている。	反論をしている。	反論をすることができない。
取り組む態度 主体的に学習に	相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	3分間会話を継続させるために自分から働きかけをしている。	3分間会話を継続させようとしている。	3分間会話を継続させようとしていない。

※「おおむね満足できる」状況をbとする

## 8 実践報告

### (1) 実践の内容と検証方法

本単元の Discussion 活動で扱った「もし自分がオーストラリアの首相だとしたら、Uluru に登ることを禁止するか」という質問についてペアで話し合うパフォーマンステストを行った。このテストでは誰とペアになるか、自分が肯定側・否定側のどちらの立場になるかテスト直前まで分からないという条件の下で行った。また、相手の意見に関する内容で反対意見を述べるように制限することで、相手の話を理解して、即興で応答することを求めた。ルーブリックを用いて3観点による評価を行ったので、その評価結果を分析することで、本実践の成果を検証する。また、パフォーマンステスト直後に生徒が書いた振り返りについても考察する。

### (2) 実践の結果と考察

最初に、以下のア～ウの点についてルーブリックの評価結果を振り返りながら考察したい。

ア 知識・技能に関する本単元の目標を達成することができたか。目標達成に向けての支援のよかつた点と不十分な点は何か。

知識・技能の観点では次の2点を評価した。

- ① 相づちや反対など会話を円滑にすすめる表現を自然に使うことができるか。
- ② この単元で学んだ語彙や表現を適切に使うことができるか。

#### 目標達成に向けての支援

- ①-1 ふだんの授業の中で、コミュニケーション活動を行う際には相づちなどの表現を使うように求めた。
- ①-2 コミュニケーション英語Ⅲの授業だけではなく、英語表現Ⅱの授業においても同様の表現を使うように求めた。
- ②-1 本単元で使われる語句については、単語カードにして生徒に配布し、帯活動として毎時間繰り返し学習する機会を設けた。
- ②-2 学級全体での Discussion を行う際に、重要語句については板書した。生徒は板書をたよりに討論された内容を英語で自分なりにまとめるという活動を行った。
- ③-3 パフォーマンステスト前に、複数回、異なるペアで本番同様の条件の下練習を行った。

パフォーマンステスト実施時の知識・技能の観点①、②の評価の結果は以下の通りである。

【表1 パフォーマンステストの結果：知識・技能】

	a	b	c
①	81.8%	18.2%	0.0%
②	18.2%	72.7%	9.1%

①の「相づちや反対など会話を円滑に進める表現を自然に使うことができるか」については、a評価が81.8%と大多数を占め、c評価は一人もいなかった。①については目標を十分達成できたと考えられる。①の目標達成に向けての支援としては、継続的に繰り返し表現を使用する機会を教科を横断して設けたことが結果につながったのだと考えられる。

②の「この単元で学んだ語彙や表現を適切に使うことができるか」についてはb評価が72.7%であり、おおむね目標を達成できているものの、a評価が18.2%と低く、改善の余地が見られる。①の目標達成に向けての支援としては、語彙や表現を理解させるには十分であったが、使えるようにさせるには不十分であったと考えられる。特に目標達成に向けての支援②-3の異なるペアで本番同様の条件のもと練習を行ったという部分については、合計で3回練習を行ったのみであり、肯定側と否定側の両サイドの意見を自分なりに伝える練習としては不十分であったかもしれない。また、②-2では Discussion で出てきたさまざまな意見を自分なりに書いてまとめるという活動を行ったが、書いて終わりではなく、有用な語彙や表現の発話練習を全体で行うなど、使える状態にするためのステップを設ける必要があると感じた。

イ 思考・判断・表現に関する本単元の目標を達成することができたか。目標達成に向けての支援のよかつた点と不十分な点は何か。

思考・判断・表現の領域では次の2点を評価した。

- ① 自分の意見を理由や根拠とともに述べることができるか。
- ② 相手の意見に合わせた反論をすることができるか。

#### 目標達成に向けての支援

- ①-1 自分の意見を理由や根拠とともに書く活動を行った。
- ①-2 学級全体での Discussion の際にも、自分の意見を理由や根拠とともに話すように促した。
- ①-3 ふだんの授業の中で、自分の考えを伝え合う活動を行う際には、理由や根拠とともに話すように促した。
- ②-1 学級全体での Discussion の際には、トピックごとに肯定側と否定側のそれぞれの意見を板書にまとめた。
- ②-2 学級全体での Discussion の際にも、相手の意見に合わせた反論をするように促した。

パフォーマンステスト実施時の思考・判断・表現の領域①、②の評価の結果は以下の通りである。

【表2 パフォーマンステストの結果：思考・判断・表現】

	a	b	c
①	45.5%	54.5%	0%
②	45.5%	36.4%	18.2%

①の「自分の意見を理由や根拠とともに述べることができるか」については、a評価が45.5%、b評価が54.5%であった。半数近くがa評価であることとc評価が0%であったことを考えると十分に目標を達成することができたと考えられる。目標達成に向けての支援として、①-3の「ふだんの授業の中で、自分の考えを伝え合う活動を行う際には、理由や根拠とともに話すように促した」点が効果的であったと思われる。継続的に行うことによって、英語が苦手な生徒であっても一定程度の習熟が見られ、c評価が0%であったと考えられる。

②の「相手の意見に合わせた反論をすることができるか」については、a評価は①と同様に45.5%と高かったが、c評価についても18.2%と一定数見られた。今回のパフォーマンステストにおいて最も差がついた部分であった。目標達成に向けての支援として、②-1の「学級全体での Discussion の際には、トピックごとに肯定側と否定側のそれぞれの意見を板書にまとめた」については、全て英語によって行われていたため、英語が苦手な生徒にとっては十分な支援にはなっていなかったかもしれない。どのような内容が話し合われたかを日本語でペアで確認するなどのステップを設けてもよかったかもしれない。

ウ 主体的に学習に取り組む態度に関する本単元の目標を達成することができたか。目標達成に向けての支援のよかった点と不十分な点は何か。

主体的に学習に取り組む態度の領域では次の点を評価した。

- 相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしているか。

#### 目標達成に向けての支援

コミュニケーション英語Ⅲの授業だけではなく、英語表現Ⅱの授業においても制限時間いっぱいまで会話を続けるように促した。

パフォーマンステスト実施時の主体的に学習に取り組む態度の領域の評価結果は以下の通りである。

【表3 パフォーマンステストの結果：主体的に学習に取り組む態度】

	a	b	c
①	50.00%	40.90%	9.10%

a 評価が 50.0%， b 評価が 40.9%とおおむね目標を達成できたと考えられる。しかし， c 評価が 9.1%と，一定数見られることから，改善すべき点についても考えたい。目標達成に向けての支援としては，教科を横断して相手と積極的にコミュニケーションを取るよう求めたことが効果的であったと考えられる。一方で，自分の考えを英語で発話することが苦手な生徒にとっては，3分間の会話を継続させること自体の難易度が高いと思われる。そういった生徒のためにも，発話に詰まってしまった場合の表現などを常日頃から練習させるなどの支援を今後は検討したい。

最後に，パフォーマンステスト直後に書いた生徒の振り返りを一部抜粋し，生徒が今回のパフォーマンステストを通してどのように感じたのか，課題は何かなどについて考察したい。以下は生徒が書いた振り返りの抜粋である。（ ）内の語句は補足説明として私が記載したものだが，それ以外は原文のままにしてある。

#### できたこと

- ・自分とは逆の立場になったがきちんと反論することができた。
- ・最初お題（トピック）に合ったことを話せるか不安でしたが，意外と話を続けることができたのでよかったなと思いました。
- ・会話はずっと続いたし，相手の話しているトピックも理解して反論を言うことができた。
- ・相づちを同じ表現を使わないで，いろんな相づちを使うことができたので良かったです。
- ・自分の意見を理由と根拠をしっかりと相手に伝えることができたので良かったです。
- ・前回よりもペラペラ表現集をあまり考えずにすらすら言えるようになった気がした。会話もスムーズにすることができてよかったと思いました。

#### 改善したいこと

- ・ペアの人の英語を聞き取れなかった部分があるのでリスニングを頑張りたいです。
- ・自分の意見を言った後に根拠となることを言えなかったなので，それを言えるようになれば説得力が増すので，そこを考えられるようになりたいと思いました。
- ・多様な語彙や表現を適切に用いることができなかった。なので，次のパフォーマンステストでは言えるようにしたいと思います。
- ・途中で止まって言いたい語句が出てこなかったなので，それができるように改善していきたいと思いました。
- ・相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとしたけど，途中間ができてしまって，私から何か問いかけをすればよかったと後悔しています。
- ・意見だけではなくて，質問を相手にしてみたりして，自分からもっと積極的に会話をできるようにしたいと思います。

このように，できたことと改善したいことをそれぞれ抜粋してみると，「自分の意見を述べる」ことや「相づち・賛成・反対などの会話表現を用いること」はある程度できたと感じたているようだ。課題は，「相手の英語を聞き取って理解すること」や「会話が止まってしまった時の続け方」などが挙げ

られる。これらの課題についてはやり取りを成功させるための鍵となる部分かもしれない。今後は、こうした課題をあらかじめ理解し、必要な支援を授業計画に組み入れていく必要がある。

### (3) 今後の展望

本実践を通して、当初のねらいである「生徒に英語でやり取りする成功体験をさせる」ことがある程度はできたように感じられる。しかし、まだまだ多くの生徒が「相手が話した内容を理解して、それに関して即座に応答をする」という点については自信がもてていない。そこで、今後は即興性のある小さなやり取りをふだんの授業で継続的に行うようにしていきたい。具体的には以下のア・イの2点に注目し、授業を実践していきたい。

#### ア 相手が話した内容を確認する＋相手に伝わるまで言い換えながら話す

ふだんのコミュニケーション活動において、**So, you are saying that ~?**などの表現を使い「相手が述べた内容を確認する」ことを徹底し、英語を聞いて理解する力や即興で話す力を養う。また話し手は相手が確認してきた内容が間違っていた場合には繰り返し言い方を変えて相手に伝わるように話すように指導する。こうすることで、聞き手を意識した即興性のある話す力を身に付けることができるのではないかと考えている。

#### イ 質問する力を身に付ける

今まで、自分の意見を理由や根拠とともに伝えることや相づち等の会話を円滑にする表現を自然に使えるようにすることに取り組んできたため、会話がスムーズに進むときは全く問題ないのだが、間が空いた場合などに会話が止まってしまうことが見られた。そこで、相手に質問をしながら会話を進められるようにすれば、どのような場合でもやり取りを継続することができるのではないかと考えている。会話の出だしだけでなく、会話の途中で必ず一つは質問をするというルールでふだんのコミュニケーション活動を展開していきたい。